

いつも、インシデント報告ありがとうございます

2023.12.05

京大病院医療安全情報140

【採血・血管確保時の痛み・しびれへの対応】

今回は、採血・血管確保時の注意事項について、裁判所の判決事例から学びましょう。

他院事例1：静岡地裁判決（2016年）

看護師が左手首から4～5cm付近を穿刺した。患者はこれまで感じたことのない鋭い痛みを感じ「痛い」と声を上げた。看護師は、しびれの有無を確認し「ない」と言われたことから1～2mm針を進め留置針を留置した。その後、左腕の痛み、握力の低下が現れ、左橈骨神経浅枝損傷との診断を受けた。

裁判所は、穿刺を中止しなかったことを過失と認定し、患者の請求を一部認容した（6102万円）。

他院事例2：名古屋地裁（2019年）

30代女性。職場の健診で左肘窩から採血を受けた。すぐに逆血があり、検体を採取し抜針となる。採血後に視力検査を受け、その後に患者は痛みを訴えた。患者は損害賠償請求を行ったが、穿刺の時点で痛みの訴えがなかったこと等をもって、裁判所は原告の請求（8300万円）を棄却した。



インシデント報告に基づいた対策です

京大病院医療安全情報140

【リスクを低減する方法を学びましょう】

正しい手技で行っても、一定の割合で痛みやしびれが発生することがあります。痛みを伴う医療行為を行う場合、患者さんはとても不安になることがあります。患者さんへの心配り、不安な気持ちへの声かけ、早期の対応が重要です。京都府医師会も、啓発目的にて、リーフレットを発出しています。

<https://www.kyoto.med.or.jp/member/medical/index.shtml>

どこでも、発生し得ることですので、基本的な対応を学びましょう。



POINT 01 穿刺後に痛み・しびれをきたしやすい血管を選ばない

★ 尺側皮静脈によい血管が見つからない場合は、正中皮静脈が第二選択になることもあります。

POINT 02 穿刺後痛の発生要因を避ける

- 血管に挿入できずに穿刺しなおす時には、同じ部位には穿刺しないようにしましょう
- 穿刺してから、針を動かしながら血管を「探らない」

POINT 03 穿刺時に痛み・しびれの訴えがあれば早期に対応する

- 穿刺時、「指先に電気が走った感じ」「指先が痺れる感じ」について声をかけて確認するようにしましょう。
- 通常の穿刺痛と違い、「痺れを伴う疼痛」「灼熱感」「放散する疼痛」などの訴えがあれば、落ち着いて穿刺行為を中止し、針を抜く

採血・血管確保時の痛み・しびれへの対応指針

第4.0版

検査部・医療安全管理部
2023年10月11日

第4.0版改訂のポイント

- ・全ページに写真した。
- ・マニュアル名を「採血時の神経損傷への対応指針」から「採血・血管確保時の神経損傷への対応指針」に変更した。
- ・第1章「採血時の神経損傷の発生リスク」を「採血・血管確保時の注意事項（リスク低減のため）」に変更し、注意すべき穿刺部位を記載した。
- ・採血時の血管確保リスクについての説明文書も小児科にも提示することとした。
- ・採血室での対応手順、放射線科での対応手順を改訂した。
- ・「注射後に痛み・しびれを感じた患者へ」の文書を改訂し、医療従事者の記載、患者用所患確認記録の記載を削除した。

Safety Management Manual

本院のマニュアルも、京都府医師会のリーフレットからの学びを掲載しています。

2023年10月
見直しました。



※ 本院医療安全管理部長は、京都府医師会医療安全対策委員会の担当理事を務めています。

医療安全管理室作成